

こうのとり通信

～兵庫県助産師会だより～

一般社団法人 兵庫県助産師会

第16号(28) 2021年3月31日発行
(発行部数 400部)

発行責任者 國廣 晴美
編集責任者 奥 陽子



〒650-0011
神戸市中央区下山手通5丁目8-14
山手グレイハイツ305号

TEL: 078-362-1310(月～金)10:00～16:00

FAX: 078-362-2737(24時間)

Email: info@hyogo-josanshikai.com

HP: http://hyogo-josanshikai.com/

ごあいさつ

副会長 嶋澤 恭子

万物が芽吹く季節となりました。まだ予断を許さない状況下ではありますが、医療機関や地域での母子及びご家族の支援を継続され、尽力されている会員の皆様には心より敬意を表します。

さて、2020年度は本会にとって新しい取り組みが始まった1年でもありました。

一つ目は、事業のオンライン化です。コロナ禍で母子の外出も制限される中、いち早く取り組んだ「オンラインふれあい広場」は貴重な事業となりました。そして、計14もの教育研修の全面オンライン化です。これには教育委員会をはじめ多くの担当者の尽力によって10月から3月まで開催されました。

二つ目は、兵庫県助産師会立助産所の開設準備委員会の発足です。産後ケア法案(母子保健法一部改正法案)の交付により、社会の助産師の役割への期待も高まっています。本会も、産後ケア事業含め、県内市町からの委託事業も積極的に受け入れていく予定です。会立助産所は、産後ケア事業など、ケアを求める女性と助産師をつなぐマッチング事業を中心に展開していきます。

そして、本会会員数が初めて350名を超えました。皆様の本会への理解、事業への協力の賜物と感謝いたします。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

世界で最も古い職業の一つといわれる助産師。兵庫県助産師会もまもなく90周年を迎えます。時代の波に吞まれず、助産師の役割の本質を見失わず、次の世代にも助産師という職業のバトンを渡せるように、足元の仕事と本会の発展に努めていければと思います。

文化祭報告

理事 西村 明子

文化祭をZoomで開催しました！！

11月3日に「コロナ禍の今、私たち助産師にできること」をテーマにZoomで文化祭を開催しました。第1部「COVID-19禍における活動についての情報交換」では、保健指導部会の坂田部会長、森田さん、なでしこレディースホスピタルの松尾さん、兵庫県立総合衛生学院の奥さんから情報提供がありました。地域、病院、教育機関のそれぞれが、知恵をしばってきめ細やかに母子のニーズに応え、学生への教育が行われていることがわかり、あらためて、助産師のなすべきことが何なのかを考える機会となりました。

第2部の「助産師会の活動紹介」では、教育委員会の吉川さん、兵庫県子育て・女性健康支援センターの竹中さん、兵庫県助産師会立助産所開設準備委員会の毛利さん、近畿地区研修会企画委員会の谷川さんから紹介があり、コロナ禍においても助産師会の活動は止まることなく活発に行われていることがわかりました。

文化祭は助産師会の会員が歌やダンスなどの余興や美味しい食事を楽しみながら学び、交流する機会として長年続いている行事です。今年度は残念ながら一堂に会することはできませんでしたが、会員の活発な活動に触れ、勇気もらうことができました。短い期間にも関わらず、素敵なスライドや動画を準備して下さった発表者の皆さん、参加して下さったみなさん、Zoom体験会から企画・運営を担当して下さった鹿谷さん、小山さんありがとうございました！遠方の会員が参加できるなど良い面もありました。次年度の企画も楽しみにしててください！



勤務助産師部会主催 C T Gライブ研修を行って

← 研修会の申し込みはこちらから (令和2年度研修申し込みは終了)

勤務助産師部会長 寺嶋 智穂

COVID-19 の感染防止対策のため、今年度の研修はオンラインで開催しました。また、講師と参加者の双方のやりとりがあった方が講師も参加者も満足度がアップするのではないかと思います、ライブ研修を選択しました。ライブ研修会当日は、講師にも熱が入り、参加者も一生懸命に聴講される姿勢が伺え、結果、参加者からは「よかった!!」という声が多数寄せられました。ライブ研修を企画・運営するにあたり、今まで Zoom を使うことがなかったので、企画から研修当日までの短期間で「Zoom に慣れる」ことに努めました。一般の Zoom 研修に意識的に参加してみたり、友人との会話を Zoom でしてみたり、会議で Zoom の機能を確認したりしました。ライブ研修当日に、メンバーがそのマニュアル本をそれぞれが持っていたことは、微笑ましく思いました。今後もライブ研修の企画・運営に、うまく取り入れていきたいと思えます。



会立助産所開設準備委員会の活動報告

← 助産所マップはこちらから

会立助産所開設準備委員長 毛利 多恵子

2020 年から新しく動いている特別委員会です。担当理事は、会長の國廣さん、委員長は毛利、委員は、理事嶋澤さん、理事総毛さん、理事郷原さん、委員井上さん、委員島崎さんです。

母子保健法が改正され産後ケア事業が市町村の努力義務となり事業展開が必須となる中、各市町村に組織的に助産所が産後ケア事業の受け皿となれることを交渉することが重要となります。また病院の統廃合、産科施設の閉鎖など少子化とともに病院等での助産師の働く場所は今後減少していくことを考えると、地域で活動する助産師の拠点が必要となります。地域助産師と女性をつなぐネットワークの役割を会立助産所が担うことができると考えています。

2020 年度は、助産所の未来についてヒヤリングを兼ねた他府県事例の委員会内の研修を行いました。「地域助産師が妊婦相談を担うには」「地域助産師が訪問看護ステーション的な働きをすることについて」検討しました。

2021 年度は、他府県の事例を学ぶ中で、本会は、産後ケア事業を地域助産師につなげる役割と、産前産後ケア事業を活用して「妊娠期から産後まで顔のみえる切れ目のない支援」を助産師ができるよう活動していきたいと思えます。会立助産所を開設し、女性と地域助産師をつなぐ役割、行政と助産師をつなぐ役割を具体的に構築していく予定です。会員の皆様からも会立助産所の屋号を募集したいと思います。メールでお願いすると思えますが、その折にはアイデアをお願いいたします。

地区助産師会等連絡会議の報告

組織強化担当理事 藤井 ひろみ

2021 年 1 月 23 日 (土) 13~15 時、Zoom ミーティングにて、地区助産師会等連絡会議を開催しました。この連絡会議は、兵庫県助産師会 (以下本会) が毎年 1 回以上開催し、各市町の母子保健への助産師の参画や、地域での助産師活動の連携強化の課題や成果を共有し、兵庫県全体で助産師の活動活性化を目指しています。

今年は西宮市助産師会、尼崎市助産師会、芦屋市助産師会、神戸市助産師会、伊丹市助産師会、明石助産師会、西播磨助産師会、北播磨地区助産師会、但馬助産師会、あわじ助産師会の方々と本会理事ら、計 18 名が参加しました。各地区で出生数や分娩取り扱い施設数が違い、抱える現状も異なりますが、どの地域でも助産師会員の力をあわせて母子訪問や産後ケアを活発に行う必要性が高いことがわかりました。

今後は、各地区助産師会の連絡先を本会でも広報し、助産師がそれぞれの地元の地域で活動に参加しやすい環境を整えていくことになりました。詳しくは、今号のこのとり通信に同封しました別紙をご参照ください。

日本助産師会の地区理事を担当して

理事 郷原 寛子

日本助産師会の地区理事(近畿地区)になって、一期2年が過ぎようとしています。理事として、理事会7~8回/年、都道府県代表者会議2回/年に参加し、審議事項を検討したり、地区理事として近畿地区の活動報告や要望・質問の準備をします。また、近畿地区代表者会議4回/年を開催し担当府県と調整しながら、情報収集や課題の検討を行ったり、地区研修会開催に向けて担当府県を支援していきます。

昨年、日本助産師会会長と地区理事との話し合いがありました。地区理事の職務規定として、「本会と担当地区都道府県助産師会の連携に関する業務について、担当地区の会長を通じて本会事業に関する取り組み・現状の課題・解決策などの進捗状況の報告を適宜受け、課題解決に取り組む。担当地区の会長からの質問については、業務執行理事として一次回答を行う。」ことが確認されました。業務執行理事として行動するためには、日本助産師会としての将来構想や重点目標、専門職能団体としての推進事項を理解し、地区の現状や課題を踏まえて理事会への意見の提出が求められます。安全対策や災害対策に関する事項も含まれており、地区理事1年生としては、日本助産師会全体の把握が不十分で(理事として適任とは言えないかもしれませんが)、中々意見を発言できないこともありました。次年度からは、2年の経験を踏まえて、業務執行理事としての役割が果たせるように努力していきたいと思います。

理事になってよかったことは、

①国や議員、他団体等からタイムリーに情報を得ることができ、助産師が社会で果たす役割や機能を日々考えることができたこと、②日本国内又は近畿地区で起こっていることについて情報共有することができたこと、③多くの助産師との出会いがあったこと、です。年齢とともに日々老化を感じていますが、地域助産師として母子の支援を続けながら、自分に与えられた仕事を続けていきたいと思っています。

「助産師」2021年2月号に近畿地区の活動報告や近畿地区の会長様の写真が載っていますので、ご覧ください。なぜか、私だけ笑っていないのですが 😊😊😊



神戸市助産師会の紹介

神戸市助産師会 会長 岸本 喜代子

兵庫県助産師会の皆様、こんにちは。神戸市助産師会です。神戸市助産師会(以下当会)の歴史は、1929年神戸市産婆会発足から始まりました。1953年頃神戸市母体保護指導員協会、2006年に母体保護指導員協会から神戸市助産師会と名称を改めました。

当会と神戸市との関係は1953年からの受胎調節実施指導、3か所の市立助産所での活動があります。その後2004年より神戸市の性教育に関する委託事業「専門家による思春期デリバリー授業(中学校1年生)」を受け「いのちの誕生」を実施しています。2020年からは中学校3年生への「自分の体を大切にしよう~性意識と性行動の選択~」も始まりました。今年度は中1では94校(予定を含む)、中3ではコロナ感染拡大予防のための緊急事態宣言を受けて十数校が中止となりましたが、65校に実施しました。

他には2014年より新しい委託事業「産後ケア事業」が始まり、現在通所と入所で、9か所の助産所と8か所の産科医療施設の合計17か所で行われています。

当会は日本助産師会・兵庫県助産師会の会員であり、神戸市在住または在勤の助産師が条件です。会の活動強化に向けて、HPの作成、組織としての体制を整えること等に取り組んでいます。

一緒に活動していただける方はお問い合わせください。お待ちしております。

連絡先については、今号のこのとり通信に同封しました別紙をご参照ください。



思いがけない妊娠SOSの活動報告

子育て・女性健康支援センター運営委員長 竹中 靖子

兵庫県子育て・女性健康支援センターでは、兵庫県と神戸市の委託を受け、思いがけない妊娠に悩む方からの相談に応じています。週2回、電話とメールによる匿名相談です。2015年2月より開始し、2020年度（12月まで）の件数は、電話70件、メール205件です。

相談の内容は、「妊娠したかもしれない、どうしよう」「妊娠したけれども、育てることができない」「産みたいがお金がない」というものから、妊娠中の不安、思春期の体の相談、家族関係など多岐にわたります。

「ひとりで悩まないで、あなたに今できることを一緒に考えましょう」と掲げ、顔が見えないからこそ打ち明けることができたのかもしれない相談者の思いに、助産師として寄り添い傾聴します。また、具体的な情報提供や、必要な支援へつながるよう関係機関に連携をとることもしています。複数回メールのやりとりができた方の半数は、相談後に産婦人科の受診や、行政につながることであり、「0か月0日の虐待」の抑止力となっていると考えられます。

相談員は17名で、事例検討会や研修会を実施し、スキルアップを目指しています。



水害対策調査を実施して

安全対策委員長 森田 輝

令和2年度、安全対策委員会では、助産所12か所の安全管理評価を自己評価にて実施いたしました。またその際に、毎年各地で起こる水害について、各施設の参考にしていただく目的で、同助産所の皆様にアンケート調査を実施いたしました。結果、次の水害対策が挙がりました。

1. 防災グッズ準備（防災バッグ、レスキューママ、簡易トイレ、ラジオ、懐中電灯）
2. 2階以上の階に備蓄（飲料水、非常食、ミルク、紙おむつ、消毒薬品、電池）
3. 排水設備（側溝の掃除、暗渠排水の設置）
4. 情報収集（緊急事態メールシステム登録、雨雲レーダーチェック）
5. コミュニティ参加（町内避難訓練参加、近隣との日頃の交流）
6. 避難場所の確認（最上階への避難経路、高台・ハザードマップの確認）

回答いただいた各助産所の、水害始め災害に対する安全意識の高まりを感じますとともに、その他助産所の皆様にもご参考にしていただければ幸いです。



専門部会だより

助産所部会 ～コロナ禍だからこそ手を取り合って～

部会長 毛利 多恵子

助産所部会は分娩を取り扱う助産所の所長および勤務者から構成されています。兵庫県下において現在分娩を取り扱う助産所は10年前には20か所ありましたが現在は12か所で、年々助産所の分娩は減少してきておりますが、産後ケア事業利用者は増えてきています。コロナ感染予防対策をとりながら、地域でお産や産後ケア事業を受け入れています。家のような雰囲気や地域の身近な存在としての助産所は、育児中のママたちにとってアクセスしやすい場であり卒乳までのおつきあいが続いています。

昨年は助産所部会の活性化を図るという目標を立て、忙しい助産所所長たちがまずは定期的に集まれる方法としてZoom会議を開き、いつも6名以上の参加があり情報交換ができました。今年はずっと地域の女性に対して助産ケアの知恵についてリモートで指導や相談ができるようなシステムをつくりたいと思っています。また助産所経営について特に人事管理的な側面やパートで支援してもらおう助産師や保育士のネットワークづくりができるといいと考えています。

距離をとらなければならないコロナ時代の人と人のつながりの中で、ますます身近な存在としての助産師の役割は大きくなっていると思います。そのニーズにどのように応えるのか、時代の流れの中で提案できることを探していきたいと思っています。

保健指導部会 ～コロナ禍でのリモートによる部会集会&研修会を開催して～

部会長 坂田 富貴子

今年度、保健指導部会では2回の部会集会をZoomで行いました。第1回目は、各市町の産後ケア及び産後ケア事業の状況について情報交換を行いました。産後のお母様方への広報やケアの質の向上のために専門部会の協力が益々重要になるという意見が聞かれました。第2回目は「地域で活動する助産師の縦繋がり横繋がり」と題して、単独でケアを行うことが多い地域活動の中での思いを語り合いました。部会集会では生の声が聞かれる場、繋がり場になっており、コロナ禍の中でまた今後もリモートなら参加できる会員様もあり、これからも続けて企画していきたいと思っています。

部会研修会は、2020年1月31日、パルモア病院小児科非常勤医師の下垣佳代子先生をお迎えし、「乳幼児の発育発達に関する知識とそれらを促すための技術～産後ケアに関わる助産師へ～」をテーマに、実演を含めたオンラインライブ研修会を開催し、196名の参加がありました。母子保健法に産後ケア事業が追加され、対象を出産後1年までとし、助産師の保健指導での活躍が期待される現在、乳幼児の発達に関しての今回の研修会は、関心が高く、知識のみでなく動画や実演を取り入れた講演は、健診・産後ケア・母子訪問の際に即実行できるものでありました。

今後も皆様からの意見を集め、地域で活動する助産師がますます元気に、そして楽しく和やかに活動できるよう進めてまいりたいと思います。



勤務助産師部会 ～コロナ禍での活動の工夫～

部会長 寺嶋 智穂


昨年からのCOVID-19の影響で、どこの職場においても、例年になく課題を抱え、その課題克服に試行錯誤の日々を送られていることと思います。

勤務助産師部会では、「CTGモニタリングを事例から判読する応用編」と「プロフェッショナル助産師のわざ」の2つのライブ研修をZoomで開催しました。ライブでの研修ということで、参加者が顔を見合わせて意見交換ができ、知識だけでなく、心をも温めることができました。また、2月13日には、部会員の交流を図るため、「わいわいカフェ」を開催しました。参加者からは、「スッキリした」「視野が広がった」「自分も頑張ろうと思った」などポジティブな感想がありました。今後も、偶数月の第2土曜日にテーマを決めて定期的に行う予定です。

みなさんと知恵を出し合えば、不可能なことも可能にできると思っています。令和3年度も、助産師本来が持っている力を最大限に発揮し、生き活きと活動していける場を更に広げていきたいと思っています。

勤務助産師部会主催 わいわいカフェ ご案内

日時：2021年4月10日(土) 10:00～11:30 Zoom開催 予約不要 テーマ：コロナ禍で学んできた新人さんを迎えて

	保健指導部会	勤務助産師部会			賛助会員（助産師学生）
新入会員	井上 美貴子	平野 牧子	山本 絵梨奈	勝部 真里恵	神戸市看護大学 1名  ← 入会申込はこちらから
	福田 友美	富岡 美佳	新名 美佳	谷川 美樹	
		内海 幸菜	林 由紀	木戸場 有紀	

🌸🌸🌸🌸🌸 **会員情報に関するお願い** 🌸🌸🌸🌸🌸

住所や勤務先など入会届に記載し登録している会員情報に変更がある方は、QRコードから会員情報入力画面に入り、変更箇所の入力をお願いします（または、同封している用紙にご記入の上、FAXをお願いします）。コロナ禍においてZoomなどのWeb会議サービスを活用した活動（会議、研修会、部会集会など）が増加しており、それに伴い本会から皆様へのメールでの連絡事項も増えています。また、災害時の安否確認はメールで行うことになっております。本会からメールが届いていない方はこの機会にぜひ登録をお願いします。

期限：4月10日までをお願いします。



← 登録はこちらから

定時社員総会のお知らせ

日時 2021年6月12日（土）10:00～（予定）

現地開催を予定しております。

場所 兵庫県学校厚生会館 2階大会議室

詳細は追ってご連絡させていただきます。

近畿地区研修会のお知らせ

テーマ ～「孤」を防ぎ「個」を支える妊娠期からの母子と家族への継続ケア～

日時 2021年11月13日（土）～14日（日）

方法 オンライン開催 ※ 後日オンデマンド配信検討中

孤立しがちな妊婦および母子に対して、妊娠期から継続して関わり、個人を一人ぼっちにさせないための支援について、みなさんと一緒に考えたいと思います。たくさんの方のご参加をお待ちしています。

「いちかんマスクプロジェクト」からマスクの寄贈を受けました

神戸市看護大学では、COVID-19感染拡大に伴い、市場でマスク不足が深刻化していた4月、布マスクを作成し、必要としている人に届けたいという看護学部の学生と教職員有志による「いちかんマスクプロジェクト」が発足されました。

妊産婦さんが少しでも安心して過ごせるようにと願いを込めたマスクは分娩を扱っている助産所にお配りさせていただきました。

ありがとうございました。（会長 國廣 晴美）



編集後記

広報委員会では、ただいまHPの改変をすすめております。助産師会の会員様はもちろん、一般の方にも、活用していただきやすいHPを目指しておりますので、ご意見がございましたらぜひお寄せください。

会員専用ページへのログインは次のとおりです。今一度ご確認ください。

- ユーザー名 ➡ フルネーム英数半角小文字
- パスワード ➡ 会員番号下4桁



広報委員：奥陽子・上月晶葉・佐治賀久美・徳重朋子・松岡倫子 担当理事：西村明子